

## 高橋 重男



食虫植物モウセンゴケの播種実験

所 在：寄居町

埼玉大学教授江森貫一先生（当時）の御指導を受け、昭和37年度版埼玉県植物誌の調査編集に携わりました。その後、寄居町三ヶ山の廃棄物埋立処分場や旧大滝村の青少年セミナーハウスの環境調査、荒川総合調査、埼玉県森林モニタリング調査に加わりました。平成10年に新しく埼玉県植物誌を出版する際に、調査や原稿の執筆、編集にあたりました。「埼玉県レッドデータブック 植物編」については、初版から検討委員を務め、2011（植物編）年版においては調査を統括する調査委員会の委員長として全体をまとめました。

埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」の発行に至る絶滅危惧種の調査および食虫植物 ミミカキグサ・モウセンゴケの保護増殖活動



### 受賞の主な取組

- ・永年にわたり県内の特定の地域に生育する植物の種類組成や群落を調査。
- ・「埼玉県植物誌」編集委員や「埼玉県植生及び主要動植物地図」（文化庁）調査員、「埼玉県における緑の評価」調査員など植物に関する各種調査に協力。
- ・「埼玉県レッドデータブック2011 植物編」の基礎データの詳細記録を作成。
- ・絶滅危惧種で県指定天然記念物の食虫植物ミミカキグサ・モウセンゴケについて、県内唯一の保護増殖活動を実施。
- ・活動の成果を町役場で展示するなど、住民の環境保護意識の醸成に寄与。

## 取組をはじめたきっかけ

寄居町三ヶ山地区に埼玉県 of 廃棄物埋立処分場の建設が企画された当初、私たちは自然保護の立場から貴重な動植物を守るために県との交渉を重ねた結果、県が非常に貴重な絶滅危惧植物のミミカキグサとモウセンゴケを安全な適所に表土とともに移植することとなりました。それ以降ほぼ20年間、その保護と増殖に努めてきました。

## これからの展望

今回推薦をいただいた「NPO法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団」には、優秀な調査員が揃っていますので、これまで私がフィールドワークとして取り組んできた「埼玉県レッドデータブック 植物編」のための調査や編集については安心していますが、今後調査員の高齢化が進むことや新規加入者が少ないことが不安です。

また、寄居町の食虫植物の保護増殖活動では、水の管理が難しく、水不足や台風などによる急激な増水に対する工夫が必要だと考えています。



自然観察会の解説風景



線路沿いを観察中

## 受賞して



永年にわたる地道な調査研究が認められたことに、自然保護の精神が感じられ、満足しております。

しかし、秩父山地では、鹿などの野生動物による食害により、荒廃は想像以上に進んでいますので、有害獣の駆除を早急に考えていただければと思います。